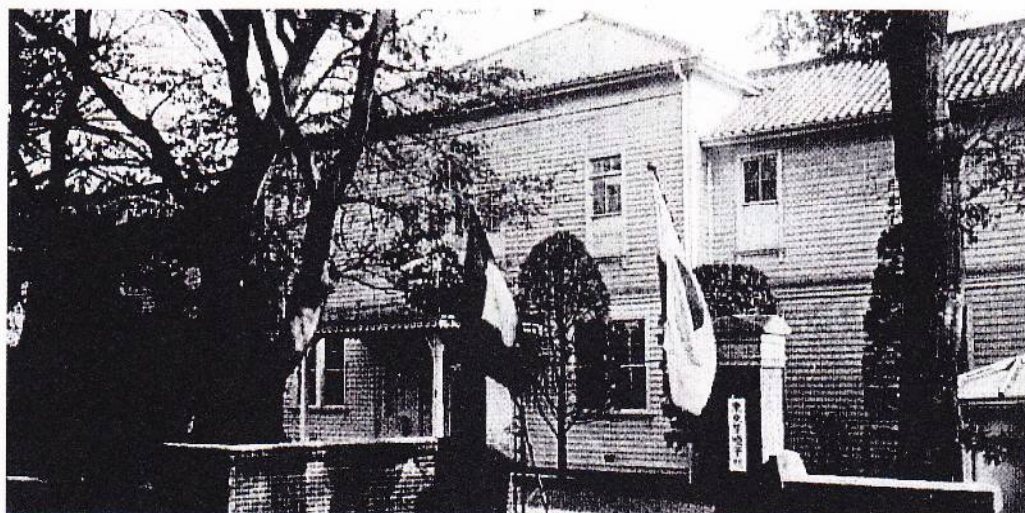


長野県松本ろう学校同窓会

記念講演会



官立東京聾啞学校

日 時：平成24年3月24日(土) 午後1時～

場 所：松本市中心公民館 (Mウィング)

「記念講演会」

演 題 『東京聾啞学校時代を振り返って』

講 師 いの うえ りょう いち 井 上 亮 一 氏（元筑波大学附属聾学校同窓会会長）

1. 東京聾啞学校の歩みについて
2. 予科入学—うんざりした発音訓練
3. 日米戦争時代を振り返って（B25の来襲の思い出／ドウェー海戦）
4. 上高地へ行った思い出
5. 埼玉のお寺へ
6. 東京大空襲を見て
7. 終戦を迎えて—我が国の敗戦の原因について

【講師プロフィール】

- 1931年（昭和6年）東京都杉並区生まれ
- 1949年 官立東京聾啞学校高等部卒業
- 1951年 国立聾教育学校付属聾学校専攻科卒業
- 1957年 早稲田大学第2理工学部建築学科卒業
- 1959年 同大学大学院工科学研究科修士課程修了
(株)平澤建築設計事務所入社
- 1974年 井上亮一設計事務所独立
- 1990年 筑波技術短期大学建築工学科教授
- 1996年 定年退官

★杉並区聴覚障害者協会会長、

東京都聴覚障害者連盟副理事長、

筑波大学付属聾学校同窓会会長他歴任



東京聾唖学校時代を 振り返って

講師 井上 亮一

1. 東京聾唖学校の沿革について

- ◆ 1880年(明治13年) 東京築地で訓盲院開校
盲生2人が入学その後聾生2人が入学
- ◆ 1887年(明治17年) 訓盲院を訓盲聾院と改称
- ◆ 1887年(明治20年) 訓盲聾院を東京盲聾学校と改称
- ◆ 1891年(明治24年) 東京盲聾学校聾生同窓会創立
- ◆ 1910年(明治40年) 聾唖学校と盲学校の分離で
官立東京聾唖学校としてスタート
- ◆ 1945年(昭和20年) 戦災で指ヶ谷校舎焼失
- ◆ 1946年(昭和21年) 千葉県市川市国府台に移転
- ◆ 1950年(昭和25年) 東京教育大学附属聾学校と改称
↓
省略
- ◆ 2007年(平成19年) 筑波大学附属聴覚特別支援学校と改称
現在に至る



← 官立東京聾唖学校
小西信八 校長先生

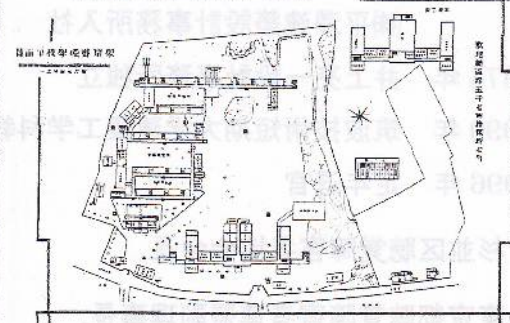


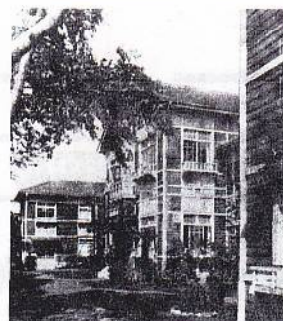
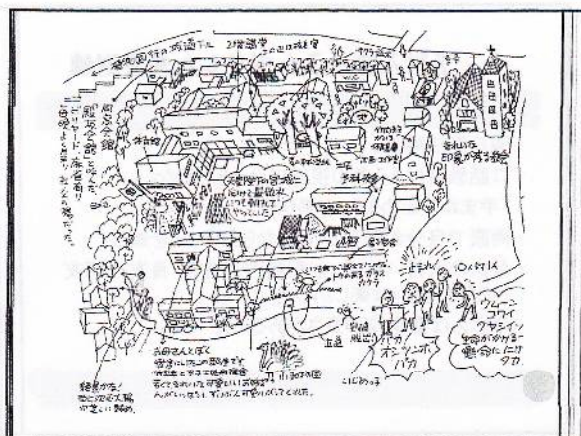
官立東京聾唖学校



東京聾唖学校・師範部図画科

東京聾唖学校の平面図





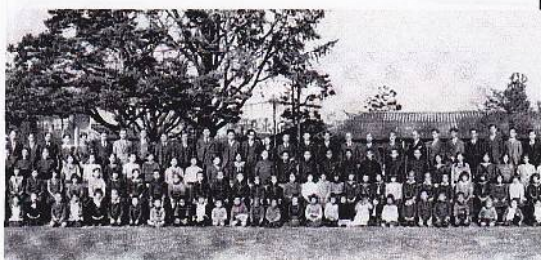
東京聾啞学校・寄宿舎



東京聾啞学校創立60周年記念式典

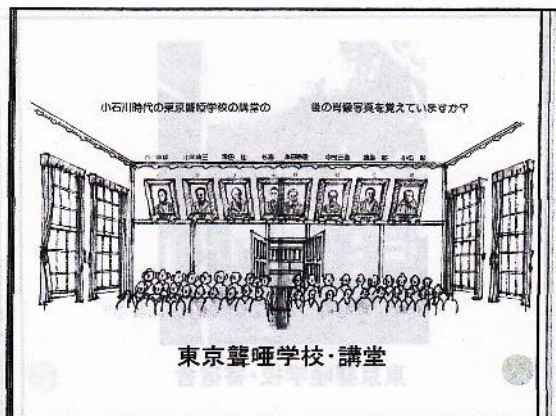


創立60周年を記念して撮られたパノラマ記念写真
昭和10年11月26日



影撮念記年周十六立創
校學聾啞克星



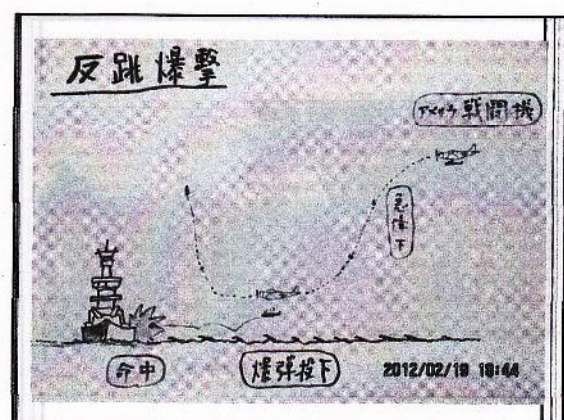
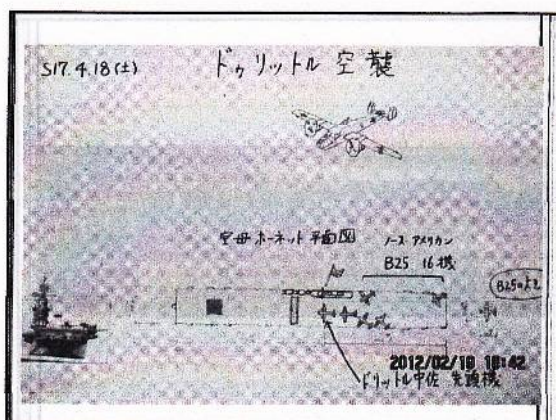
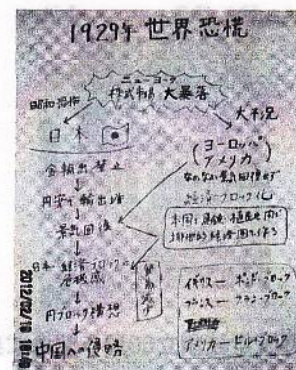


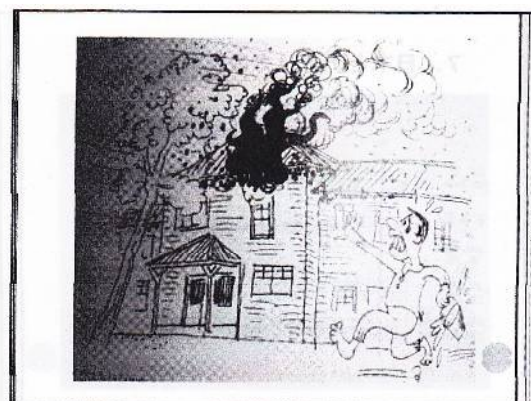
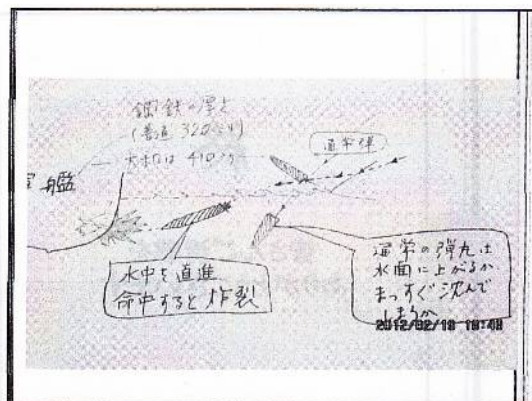
2. 予科入学—うんざりした発音訓練

- ・純口話法始まる
- ・口話教育はろう者の視線に合うと思わない
- ・「手まねを止めよう」の張り紙
- ・両眼で自分の発音がうまくならないことを知る
- ・お山の大將いれば、お転婆やおやま・良友や悪友との触れ合いは楽しかった
- ・今思えば聾学校の良さがあるのだ

3. 日米戦争を振り返って

- 1942年(昭和17年)4月16日
日本本土の初空襲、日本国民にショック走る
ノースアメリカンB25・16機はどこから来たか?
- 日本海軍がミッドウェー作戦に臨む
- 1942年6月 ミッドウェー海戦、日本空母艦4隻沈没により
日本が致命的な敗戦・それを隠べいして勝った
嘘の報道
- 1944年7月 アメリカ軍がサイパン島占領
日本では守備隊玉砕と美名の報道
- 〃年11月 アメリカ空軍が ボーイングB29 88機が
東京を爆撃
- 以後 アメリカ空軍 連続的に日本本土に爆撃
- 1995年8月15日 日本が全面降伏宣言で終戦となる





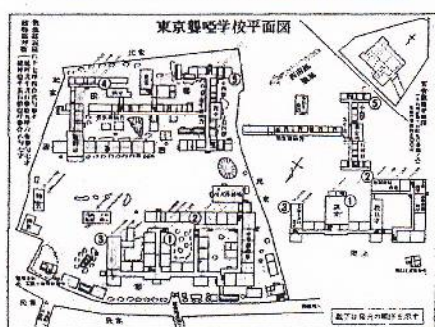
4. 上高地の思い出



5. 埼玉のお寺へ



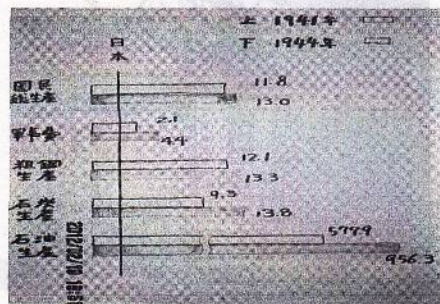
6. 5月25日の東京大空襲を見て



アメリカの空爆の目的

1. 日本国民に最大限の精神を与える
2. 交通の中心地に打撃を与える
死者10万人、負傷者40万人の
被害者東京は、
一面焼け野原となる

7. 日本とアメリカの経済力・戦力



終

皆さんご清聴を
ありがとうございます

第351号

第三種郵便物認可

ろ う あ 信 州

2012年5月1日 (7)

いのうえりょういち

井上亮一氏の記念講演会

去る3月24日(土)午後1時半より松本市中央公民館にて松本ろう学校同窓会の企画で『井上亮一氏の記念講演会』が行われた。

元筑波大学附属聾学校同窓会長・元筑波技術短期大学教授の井上氏(81才)を講師にお迎えして、演題『東京聾啞学校時代を振り返って』を、ご講演いただいた。

パワーポイントを用い、貴重な写真を見せていただき、素晴らしい内容だった。母校大先輩の小岩井是非雄先生と山中福代先生との出会いや思い出話、また諏訪出身の平林弘也さん(野球部のエースピッチャー)を見た思い出話も聞かせていただいた。

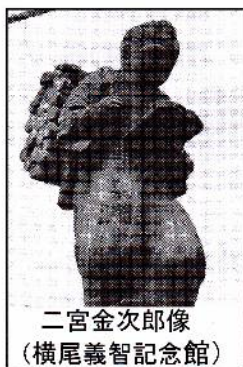
東京都文京区(旧・小石川区)東京聾啞学校にて、戦争中にアメリカ軍の爆撃機(B-25)を見て怖かったこと、東京大空襲被害のため埼玉のお寺で暮らしたこと、戦後残念ながら母校の校舎を戦災により全焼してしまったこと、色々な体験話を聞かせていただき、その歴史を知ることができ、勉強になった。(松本ろう学校同窓会事務局長：内田博幸)



信濃聾史だより(21)

にのみやきんじろう

二宮金次郎像の建立



二宮金次郎像
(横尾義智記念館)

皆さん、二宮金次郎(尊徳)の伝記と「二宮金次郎像」をご存じでしょうか?

二宮金次郎(1787~1856)は、神奈川県の農民の子として生まれ、早くに両親を亡くし、兄弟とも離れ、独学で農作

業に励み、江戸時代後期の優れた農政家になったのは有名である。

薪(まき)を背負いながら本を読んで歩く姿は『報徳記』として、「二宮金次郎像」となり、台座には「勤勉」「向上心」の文字が刻まれ、全国各地小学校の校庭に建てられた「二宮金次郎像(石、セメントほか)」のモニュメ

ントが多い。

歴史を見れば、大正～昭和20年頃、小学校の義務教育制が全国に導入され、「修身」として二宮金次郎の銅像が建立された。しかし、戦時中金属供用のため台座のみが残ってしまい、その後地元や卒業生からの寄付で石像、セメント像を作って再建され、今までも広く親しまれているそうである。(昔は、文部省唱歌「二宮金次郎」があった。)

さて、全国聾学校の中には、二宮金次郎像が建てられた大阪市立聾学校(石像)、愛知県立岡崎聾学校(石像)がある。また新潟県・ろうあ村長の横尾義智記念館(セメント像)にも二宮金次郎像がある。

参考資料：伝記「二宮金次郎」、PCインターネット
(日本聾史学会役員：内田博幸)